



みやの地域づくりだより

発行 みやの地域づくり協議会 生活・環境部会

第80号 平成30年6月22日発行

☎934-5005 FAX934-5017 ✉miyanoti@c-able.ne.jp

ホタルが育つきれいな榎野川をつくりたい！！

6月9日（土）「第34回宮野ホタルまつり」が開催されました



宮野中学校吹奏楽部の演奏で幕を開け、セレモニーでは、ホタルの飼育、作文・イラスト表彰、代表児童による作文の朗読につづき、昨年登場したキャラクター『キラルン』と今年誕生した妹の『キラリン』の紹介もありました。ふれあい館内展示場では、ホタルの人工飼育をおこなっている宮野小学校「ホタル委員会」のホタルの飼育状況や作文を掲示したパネルに、多くの皆さんが足を止めて熱心に見られていました。「ホタルまつり」は大盛況でした。



裏面では、「ホタルまつり」で掲示された作文の中から、6年生の浅野間由菜さんの作文を紹介します。



～ホタル委員会に入って思ったこと～

六年 浅野間 由菜

私は、今年からホタル委員会に入りました。私は、五年のとき、ホタルの本を読んで、とても興味をもったので、今度は、ホタルを育ててみたかったので、このホタル委員会に入りました。

今年、ホタルの命をあずかると考えると、とても不安だったけれど、しだいに、やっていて、楽しいなと思うようになりました。

次にホタル委員会の活動を紹介します。

四月には、アユの放流をしました。

早く大きくそだってほしいと思って放流しました。五月には、よう虫を育てるための砂洗いをしました。大変ではありますが、なれるととってもやりがいがあります。

六月は、ホタルの成虫をとります。オスは、すぐ見つかりますが、メスは、草かげにかくれていてなかなか見つかりにくいそうです。オスとメスが交びをしてたまごが生まれてから、やく一カ月後にふ化が始まります。たくさんよう虫がふ化することを願っています。

七・八月の活動は、夏休みのホタルのお世話をすることです。その日ふ化した幼虫の数を数えて、水そうに入れていきます。

一日に五百ぴきものよう虫がふ化することもあり、とても大変だそうです。

水をかえたり、幼虫のエサのカワニナにキャベツをあげたりする作業もあります。

九月には、育ててきたホタルの幼虫を放流します。今年は何びき放流できるか、すごく楽しみです。来年、夜空をきれいな光でつつみこむホタルが飛びまわっていることを願いこれからもお世話しようと思います。

このように、ホタル委員会の仕事は、大変ですが、このホタル委員会に入ってよかったと思うことが二つあります。

一つ目は、自分が興味をもった、ホタルを実さいに育てることができるということです。

二つ目は、生き物の命の大切さをしれたことです。

でも悲しいこともあります。

きれいな光をみせてくれ、飛び回っている成虫は、たったの一週間から十日ぐらいの命しかないということです。

自分たちの育てた幼虫が成虫になって一週間から十日ぐらいで死んでしまうのは、私たちホタル委員会にとっては悲しく、つらいことです。

今年、宮野小がホタルの飼育を始めて、三十六年目です。ホタル委員会では、「キラリン」の妹を全校にぼ集して「キラリン」がたんじょうしました。「キラリン」と同じで、とてもかわいいです。あとでしようかいます。

これからも、「キラリン」や「キラリン」と共に、ふるさと宮野の大切なホタルのお世話をがんばっていきたいと思います。

